

## 令和5年度 第2回（通算第55回） 山梨県立博物館 運営委員会 議事録

日 時： 令和5年12月1日（金） 午後2時～4時

場 所： 山梨県立博物館 生涯学習室

出席者：

- 委員 相沢季里、市川美季、末木健、中山誠二
- 事務局 守屋館長、渡邊副館長、佐々木総務課長、近藤学芸課長、石神企画交流課長、  
関係職員5名
- 観光文化スポーツ部文化振興・文化財課  
森原文化企画指導監、小坂井主任

会議の次第：

- (1) 開会
- (2) 挨拶等
- (3) 審議
- (4) 報告
- (5) その他
- (6) 閉会

会議の概要

- (1) 開会
- (2) 挨拶等
  - 館長挨拶
  - 委員長挨拶
- (3) 審議
  1. 令和7年度の企画展について【非公開】  
※非公開理由：山梨県情報公開条例第8条第1号及び2号に規定する事項について審議等を行う  
ときに該当するため（指針第3条第1項）
- (4) 報告【公開】
  1. 令和6年度の研究計画について
  2. 開催済み展覧会について
  3. 資料・情報委員会の開催状況について
  4. みんなでつくる博物館協議会の開催状況について
  5. 利用者状況について

○事務局より報告1～5について資料2～6に基づき説明。

(委員)

・アウトプットを重要視すればするほど、インプットをきちんとやらなくてはいけない。山梨県立博物館は科学研究費など外部の研究資金を取得している、県の予算だけではないという点は強調しなくてはならない。外部資金を取得して行った研究のなかで新しい発見があり、このことを広く県民に伝えているという点について、もっと積極的に示していかないといけないだろう。

(委員)

・山梨の歴史を勉強しようと思う人は、県立博物館に来館するだろう。せっかく来館したのに、重要な展示の要素が欠けてしまっていては、来た人たちはがっかりすると思う。  
・信玄の事績や、地域にどのような影響を及ぼしたかなど、そうした展示を見に来る人達の受け皿をなぜ作らないのか。そうした受け皿を作らずに、数値や結果などを求めるのは公平とは言えないのではないだろうか。毎回この委員会でも話をしているところではあるが、この点について強く伝えてほしいと思う。

#### (5) その他【公開】

(委員)

・私のまわりでも博物館に行ってきたという人がいるが、キャプションの文字が小さくて見えないと言われることがある。それについては、文字の大きさなど博物館でしぼりはあるのか。

(事務局)

・しぼりなどはない。小さなスペースに小さいキャプションを出さざるを得ないところなどもあり、そういった点でお客様にご不便をおかけしているかと思う。キャプションの文字のサイズについては検討していきたい。

(委員)

・展示を見る順番について、回り方で迷うことがある。宝塚の展覧会を見た際も、どう見ればよいか迷っていた人がいたので、展示室に順路の番号をつけるなどして工夫をしてはどうか。

(事務局)

・大方の展覧会については、キャプションのなかに番号がついており、それが展示を見て回る際の手助けになるかと考えている。必要と思われる場所については順路表示などを出しているが、今回の宝塚展については、床に赤い絨毯を敷いていたことから、それを辿ってもらうという思惑があり、通常より順路表示を少なくしていた。

(委員)

- ・赤い絨毯があったことと、こちらが混んでいる時は別のところを見る、ということをしていたので、私は展示を見た際あまり不便には思わなかった。
- ・なお、今回の展覧会を見た友人のなかには、山梨県出身の人で、現在宝塚で活躍している人のコーナーがあるかと思っていたが、それがなかったので残念に思ったと言う人もいる。夏に開催された水木しげるの展覧会では、地元の妖怪のコーナーが評判であった。水木しげるもだが、皆地元に関わりのあるところに興味があるのだと感じている。
- ・レストランについては、今後どうなるのだろうか。喉が渴いた時にも困る。なお、夏の展覧会では玄関でパンを販売してくれていたのが、大変助かった。関連グッズも大きいスペースを取って販売していたので、工夫があって良かったように感じる。

(事務局)

- ・館内のレストランについては、6月補正予算で観光振興課が事業化し、県内産の果実を用いたカフェをオープンする予定である。

(委員)

- ・展示室内の写真撮影の可否は現在どうなっているのか。

(事務局)

- ・体験型展示など、限られたスペースでの撮影のみ許可しているが、基本的に常設展示室内は撮影をご遠慮いただいている。借用している資料の関係や、展示環境の関係などで、撮影を許可することは難しい。企画展についてもその企画展ごとの性質があり、今回の宝塚展についても限られたスペースのみ撮影可としている。一部だけでも撮影できるようにするなど、今後もしもできるだけご要望に応えたいと思っている。

(委員)

- ・山梨の歴史は武田だけではない。よく知られているのは武田ではあるが、山梨のなり立ちや他との繋がりなどから、歴史は成り立っている。
- ・そのために山梨県史が作られている。山梨県史ができてからだいぶ時間がたつが、研究によって新たな発見もでてきている。世の中の流れがそうだからと諦めるのではなく、よい流れになるように努力していただきたい。

(6) 閉会